

2021 年度 神戸大学 前期 国語

—

問一

社会を良くする点で犯罪者は非難されるのではなく更生可能な存在だと主張するイーグルマンの未来志向的な提言に対して、同じく未来志向的な観点から内在的に批判する議論。(80字)

問二

自己の罪を反省・後悔せずに避けられなかったとする殺人犯の態度は、犯罪者が更生している点で、過去ではなく未来を考慮するイーグルマンの提言と食い違わないということ。(80字)

問三

科学の発展を考慮すれば、犯罪が遺伝的・環境的要因によるものかどうかの線引きの基準は変化してしまっているので、犯罪者が非難に値するかどうかが不確定になるということ。(78字)

問四

科学の進歩は、人間の行為が環境と遺伝の産物であることを明らかにする可能性を持ち、責任概念の見直しを迫る。たしかに、現在の倫理は、過去志向の認識による非難を基盤としている点で科学的認識とは相容れないが、未来志向の認識に立たずとも、社会制度の存続を可能にする未来志向の効果をもち、結果として科学的事実と整合しうるということ。(160字)

問五

- a 頻繁 b 放免 c 疾患 d 破棄 e 包摂

2021 年度 神戸大学 前期 国語

二

問一

- ① あなたの前にいる人を下がらせなさってくださいませ
- ② 親より先には決してお飲みにならないだろうから
- ③ お亡くなりになるような時
- ④ 頭から衣をかぶってうつ伏しなさる

問二 栄華を極めた平家が清盛の度を越した悪行のせいで滅びるといふ夢を見て、一門の命運が尽きると思ったから。(五〇字)

問三

- (1) 無文の太刀
- (2) 父清盛の葬儀に帯刀するつもりで無文の太刀を持っていたが、自分の方が父親よりも先に死にそうだから、息子の維盛に託したい。(五九字)

問四

- a ける b ける c けれ

問五

ニ

2021 年度 神戸大学 前期 国語

三

問一

(ア) 馬の毛は細いので、描くことはできません。
(イ) 毛を描かなければならない。

問二

実物は大きな馬を小さく描くということ。(一九字)

問三

凡人が馬を牛や虎の大きさを描く時に、当然毛を描くべきところを、小さく描かれた馬を手本として何も考えずにそのままその毛を描かないということ。(六九字)

問四

- ① ただ
- ② すべからくべつあるべし
- ③ のみ
- ④ もし